



さあ、一緒に未来の教育づくりを始めよう！

長崎大学大学院教育学研究科 管理職養成コース

School Administrators Training Course
Graduate School of Education, Nagasaki University



管理職養成コースがめざすもの

本研究科は、長崎県が直面する地域の縮小化等の今日的課題への対応や計画的な人材育成に資するために、大学が有する専門性を活かした管理職養成コースを平成30年度に立ち上げました。管理職のリーダーシップによる開かれた教育課程（学校）の実現により、未来を拓く子どもによる地域の持続的な発展を目指します。本研究科と教育委員会・教育センター・学校現場との協働により、教育の不易と流行を踏まえ、家庭や地域と共に学校が進むべき方向（ミッション・ビジョン）を共有しながら学校改善を図ることのできる力量をもった管理職を育成します。



教授 藤本 登
(管理職養成コース主任)

「問いと学びの無限ループ」

講義に関するレポートを書いたり、研究を進めたりするにあたって、たくさんの本を読んだ1年間でした。先行研究や文献から学び、新たな問いが生まれる「問いと学びの無限ループ」の中で、視点を増やし、視野を広げ、視座を高めることができました。多くの先生方や良き仲間との出会いもまた、私の宝となりました。



上久木田 雄二
(令和元年度修了生)

見方・考え方が広がる

もがきながらも学ぶことに楽しさを感じた1年間でした。多様な価値観に触れ、物事の見方・考え方が広がることで、自分の中から出てくる言葉が変わったように感じます。

これからこの学びを多くの方と共有し、学校づくりに励みたい、仲間を増やしたいと思うようになる場所でした。自分を省察する充実した時間となりました。



赤木 進也
(令和元年度修了生)

講義：管理職に必要な資質・能力を高めることができるプログラム

学校組織マネジメント演習（通年）

組織開発についての文献の理解をベースに、学校現場の問題や管理職としての対応策等を、ディスカッションをととして明らかにしていきます。実態（問題）把握のためのデータ収集と分析法も学びます。



学校経営総論（前期）※

長崎県の様々な分野をリードする方々のお話を聞くことができ、「育成指標」の観点から学校経営について考えることができます。また、学んだことを咀嚼し、自分の言葉に起こしていく作業は、管理職として学校現場で何ができるかを、具体的に考えることができ、資質を向上させてくれます。

講義タイトル

- ・「長崎県の教育行政施策」（県教育委員会義務教育課長）
- ・「PTAと学校経営」（社会教育委員）
- ・「マスメディアから見た学校教育」（長崎新聞出版室長）等

※ 令和元年度「学校経営総論」及び「学校教育実践実習4」は、教職員支援機構の助成を受け実施しました。
詳細は <https://www.gedu.nagasaki-u.ac.jp/wp-content/uploads/2020/03/k-2019.pdf>



リーダーの役割と資質（前期）

リーダーの役割と資質の理解に向けて、国内外の教育をめぐる動向を多角的に学び、それをこれまでの経験に照らして考察することで、自らの教育理念を問い直し、鍛えていくための授業です。「学び続ける」管理職としての在り方についても学ぶことができる貴重な機会となります。

附属・公立校の管理職から直接学ぶことができるプログラム

学校教育実践実習5（附属学校・園及び公立学校での実習）

- 期間 ●教育学部附属学校・園2～3校…各2,3日
●公立学校(校種毎)1,2校…各3～5日（計90時間以上）
- 内容 各校の実態に応じ、以下のような内容の実習を行います。
●管理職による登下校指導、授業参観、会議・研修への参加
●管理職の参与観察
●学校経営案や講話の作成、授業参観後の指導助言の方法の検討

令和元年度実践報告書題目一覧

- ・これからの教育を支える人材育成に関する一考察
- ・子どもたちの育ちを支える大人のつながりに関する研究
- ・学校改善を促すより良い学校評価の在り方に関する考察
- ・働きがいのある職場を作り出す管理職の在り方についての研究
- ・教員の主体的な学びにつながる校内研修の在り方
- ・学校経営の基盤づくりと経営方針の共有・浸透に関する研究
- ・資質向上を図るOJTの実態とそれを推進する組織マネジメント
- ・教職員のエンパワメントを生み出す学校組織に関する考察
- ・ミドルリーダー育成に関する一考察
- ・円滑な小中連携教育に向けた組織づくりの現状と展望

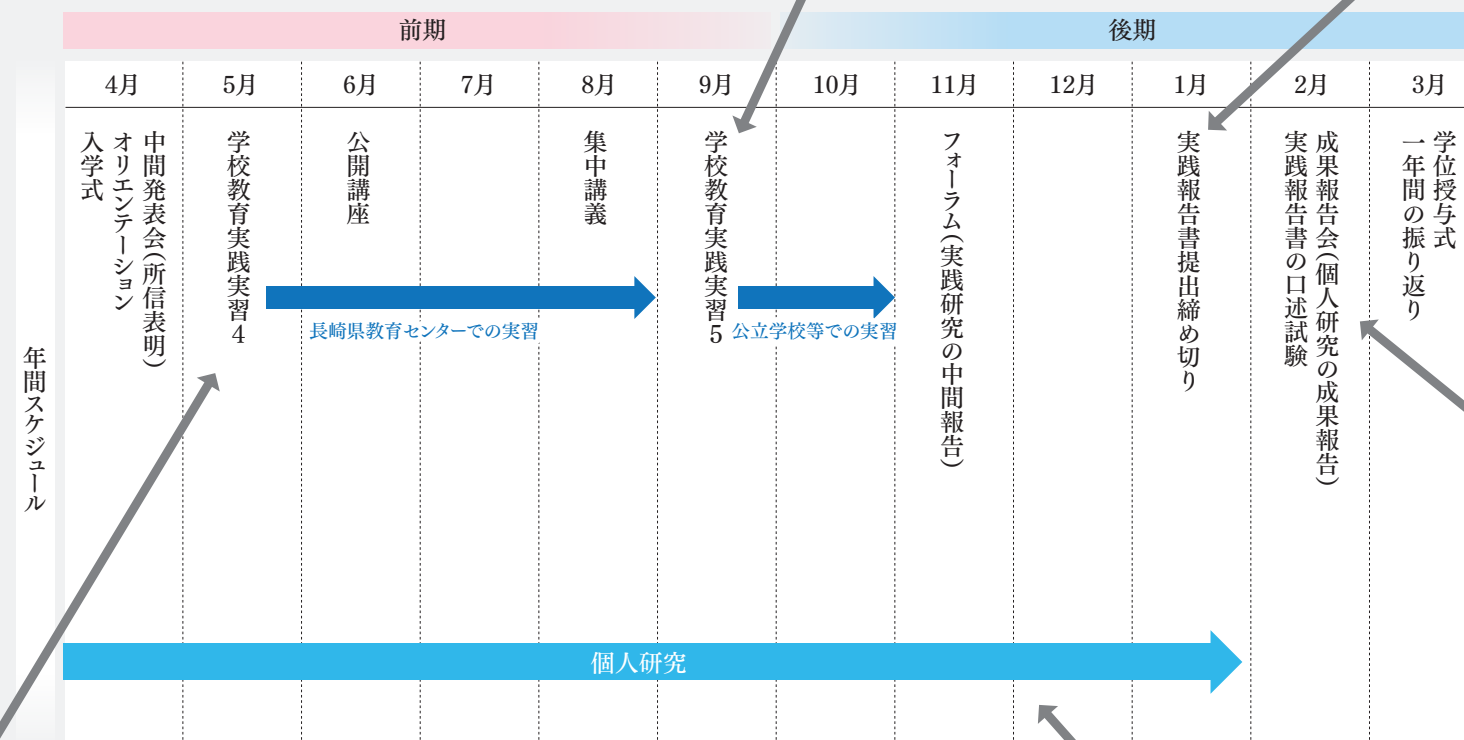
1年間の学びの集大成を仲間と共有するプログラム

成果報告会

年間を通して、各自が取り組んだ研究を発表します。令和元年度は、院生32名が研究成果を報告しました（発表15分、質疑5分）。

参加者：教育委員会及び教育センター職員

実習先教員
大学教員
院生
一般参加者他



長崎県教育センターにおける職員研修について実践的に学ぶプログラム

学校教育実践実習4※（県教育センターでの実習）

○参画講座

- ・新任校長研、新任教頭研、ミドルリーダー研、中堅研、初任研等から3・4講座（計90時間以上）

○研修内容

- ・各講座の企画段階から参画し、県の施策や指標を踏まえた学校経営、職員研修の重要性を理解できます。併せて、県の施策、学校教育目標を具現化するための視点、手立てを学ぶことができます。
- ・各講座において、指導助言や協議のファシリテーター役を担う経験を通して、ファシリテーターとしての心構えやスキルだけでなく、職位や世代別の視点や認識の違いを俯瞰的に考えることができます。

講義外での学び

○院生室における学び

管理職養成コースの院生が、「学級経営・授業実践開発コース」、「子ども理解・特別支援教育コース」、「教科授業実践コース」の3コースの部屋に分かれて入り、講義内容について議論を深めます。また、ストレートマスターに対し、授業づくりのアドバイスも行いました。



○組織運営に関する学び

個人研究の経過報告等を行うフォーラムでは、ストレートマスターと現職教員の院生が互いに協力し、案内状の送付から、前日準備、当日の運営まで、院生が主体的に行います。

実践報告書の作成に向け、ゼミ形式で個人研究を深めるプログラム

“学校教育実践研究”は、大学院におけるゼミにあたります。ここでは、組織開発や人材育成など、学校経営において自分が詳しく研究したい課題について、1年をかけて追究していきます。これまでにどのような研究が行われてきたのかを研究論文や書籍を通して学んだり、附属学校等での実習の中で管理職に直接インタビューをしたり、目的に応じた方法で調査研究を進めていきます。

研究を進めるにあたっては、大学教員も院生も複数で協働的に進めていくので、安心して充実した研究に取り組むことができます。



アドミッション・ポリシー

1. 教育理念・目標

教育学研究科では、精深な専門的知識・技能を授けることにより、創造性豊かな研究能力及び高度な教育実践力を有する人材を養成し、併せて現職教員の再教育に努め、教員の資質の向上及び学校教育の振興に資する。

2. 求める学生像

スクールリーダーを目指す現職教員で、自己の職能開発と地域教育界の充実に貢献する意欲のある人

3. 入学者選抜の基本方針

- ☐ 学校教育や教科・領域の現状や課題の知識
- ☐ 子どもの発達やその教育に関する理解
- ☐ 教育実践に必要な技能や能力
- ☐ 学校教育の現代的課題の解決意欲
- ☐ 管理職として、社会に開かれた教育課程の実現に向けた課題意識

カリキュラム・ポリシー

本コースでは、学校経営ができる高度な力を育成するために、以下の時間割（令和元年度の講義題目）のような教育課程を編成しています。（上段：前期、下段：後期）

	月	火	水	木	金
1	特別支援教育の基礎理論	県教育センター・各学校での実習等			
					学校組織マネジメント演習
2	学級経営と学校経営の理論と実践		特別支援教育コーディネーター論	授業研究と教師教育	
				カリキュラム・マネジメント	
3	インクルーシブ教育システムの構築		小学校外国語活動の実践と課題		
			学校経営総論		リーダーの役割と資質
4	学校危機管理の理論と実践			人権教育の理論と実際	
					学校教育実践研究3
5	福祉教育の理論と実際				学校教育実践研究4

※ 実習と併せ、合計47単位以上を修得します。なお、上記以外に集中講義として「教育の情報化の研究と実際」、「教科指導におけるカリキュラム・マネジメントと情報活用能力の育成」、「学校の危機管理」が開設されます。

ディプロマ・ポリシー

- ☐ 一人ひとりの児童生徒のニーズを理解し、的確に対応できる能力の習得
- ☐ 学級・学校の機能をより向上させるマネジメント能力の習得
- ☐ 高い実践力を持ったスクールリーダーとなれる資質の習得

管理職養成コース

Q&A

Q. 院生数は何人ですか？給与はどうなりますか？

A. 年度によって変わりますが、令和元年度は10名（小学校籍7名、中学校籍2名、高校籍1名）でした。次年度募集は6月から始まる予定です。なお、給与は現場と同じように支給されます。

Q. 大学院に入学して最初、どんなことがありますか？

A. 履修の仕方や講義についてのオリエンテーションが行われます。4月下旬には、個人研究のテーマについて発表をする中間発表会があります。

Q. 講義や実習がない時がありますが、どんなことをしていますか？

A. 自分の研究を進めたり、講義の事前・事後のレポートを作成したりしています。また、コースの院生で集まり、自主的に学習会を開き、幅広く研鑽を深めています。

Q. 大学院での学びの中で、特によかったことを教えてください。

A. これまでの自分の実践を振り返り、自身の強みや課題を整理することができました。その過程で、自分が理想とする学校像や管理職像をしっかりと思い描くことができました。

Q. 講義や実習等の学びの中で出た疑問などはどのようにして解決していましたか？

A. 定期的に院生で集まってコース会議を開き、その中で、疑問に思っていることや研究の見通し等について意見交換を行いました。

詳しくはホームページで！

教育学研究科(教職大学院)ホームページ
<https://www.gedu.nagasaki-u.ac.jp/>

